



加賀まりこ 塚地武雅

梅切らぬバカ

渡辺いっけい 森口瑠子 斎藤汰鷹

徳井優 広岡由里子 北山雅康 真魚 木下あかり 鶴田忍

永嶋終吾 大地泰仁 渡辺穂 三浦景虎 吉田久美 辻本みず希

林家正蔵 高島礼子

監督・脚本：和島香太郎

製作代表：松谷孝延 エグゼクティブプロデューサー：市井三衛 撮影：若菜 小西将介 プロデューサー：木間英行 楠津耕 芦島孝 深澤宏 共同プロデューサー：杉本崇介 計念：石川ハルミツ 撮影：沖村豊安 録画：土山直人 録音：猪股正幸
編集：杉本博史 装飾：高橋亮 記録：工藤みすは 助監督：諸澤照文 音楽プロデューサー：木村学 音響効果：鶴志さくら ミュージックエディター：大森力也 制作担当：村山大輔 制作実業：大友洋子 ラインプロデューサー：岩田均
配給：宣伝：ハピケットファントム・スタジオ 文化片委託事業「edge」若手映画作家育成プロジェクト2020 芝居原映画祭の実地研修賞受賞作品 ©2021「梅切らぬバカ」フィルムプロジェクト

大きな梅の木に見守られ、母と息子は今日も生きる。ゆっくりと、丁寧に。
人と人とがつながり、共に生きることの歓びを描く。



忠
さん

几帳面で、馬好き

珠子さん

ちょっぴり辛口の占い師



一緒に笑って、たまに怒って涙して。
このありふれた毎日が宝物。

都会の古民家で寄り添って暮らす母と息子。ささやかな毎日を送っていたが、息子が50回目の誕生日を迎えた時に母はふと気づく。「このまま共倒れになっちゃうのかね？」母親と自閉症を抱える息子が、社会の中で生きていく様を温かく誠実に描く本作。包容力あふれる母親を演じるのは、54年ぶりに主演を務める加賀まりこ。軽口を叩きながらも、小柄な身体で大きな息子の世話をする姿はとてもチャーミング。だからこそ、やがて訪れる“息子が1人で生きる未来”を案ずる横顔が、より一層切ない。息子役にはNHK連続テレビ小説「おちょやん」など俳優としても活躍中の塚地武雅(トランクドラゴン)。地域コミュニティとの不和や偏見といった問題を取り入れながらも、親子の絆と深い愛を描き、あたたかな感動をもたらす。

父親代わりの梅の木が運んでくれた“小さな奇跡”とは…？

山田珠子は、息子・忠男と二人暮らし。毎朝決まった時間に起床して、朝食をとり、決まった時間に家を出る。庭にある梅の木の枝は伸び放題で、隣の里村家からは苦情が届いていた。ある日、グループホームの案内を受けた珠子は、悩んだ末に忠男の入居を決める。しかし、初めて離れて暮らすことになった忠男は環境の変化に戸惑い、ホームを抜け出してしまう。そんな中、珠子は邪魔になる梅の木を切ることを決意するが…。

ことわざ「桜切る馬鹿、
梅切らぬ馬鹿」とは？

樹木の剪定には、それぞれの木の特性に従って対処する必要があるという戒め。転じて、人との関わりにおいても、相手の性格や特徴を理解しようと向き合うことが大事であることを指す。

映画「梅切らぬバカ」弘前市上映会

9月18日(日)

- ① 10:30
② 12:30
③ 14:30

弘前市総合学習センター
多目的ホール

前売券 一般・シニア・大学 1200円 当日券 一般・シニア 1500円 大学 1300円 中高生 800円 小学生以下無料

【主催】 映画「梅切らぬバカ」弘前市上映実行委員会

実行委員長 三上 瑛子

実行委員 安藤晴美、大高義昭、大湯恵津子、小山三千雄、吉川真由美、齋藤久利子、松橋武史、松島明、棟方貴子、森山忠雄(五十音順)

【前売券取扱所】

さくら野百貨店 弘前店

(株)中三 弘前店

【後援】 弘前市、弘前市教育委員会、弘前市社会福祉協議会、東奥日報、陸奥新報社、RAB青森放送、ATV青森テレビ、ABA青森朝日放送、FMアップルウェーブ

【共催】 弘前自閉症児者親の会(弘前自閉症児者親の会創立40周年記念事業)

【お問い合わせ】 090-2844-6404(三上) 090-7563-3875(齊藤)